（公財）中央果実協会
No.400

新興国で知的財産の尊重意識が高まる

FreshPlaza　2025年2月13日

中国、インド、トルコ等の新興国では、知的財産に対する尊重意識が次第に高まっている

新しい果樹品種の開発、商品化、販売促進のため、国際苗木生産者連合（Associated International Group of Nurseries（AIGN®））が1980年代に設立された。AIGN®の北米メンバーであるブランドズ果樹会社のケビン・ブランド氏は、「世界中にメンバーがおり、消費者のすばらしい体験を創造し、品種の所有者や関係者に最高の長期的利益をもたらしたいと考えている」と述べた。（以下「　」は同氏の話）

新興国

AIGNのメンバーは、世界の様々な気候帯に散らばっており、柑橘類を扱う者もいれば、ナッツ類を扱う者やリンゴ、ナシ、核果類、サクランボを扱う者もいる。この組織は、アルゼンチン、チリ、北米（米国、カナダ、メキシコ）、EU、南アフリカ、韓国、ニュージーランド、オーストラリアに拠点を置く12のメンバーによって代表されている。中国、インド、トルコのメンバーが極最近加わった。「我々は、これらの新興国での機会を活用し、育成者に代わって品種を保護する役割を果たしたいと考えている。」

トルコを例にとると、AIGNはイスラム教徒のコミュニティとの確立されたつながりを持っていない。しかし、それは重要であり成長しているコミュニティである。「トルコのパートナーを迎えることで、イスラム教徒コミュニティの生産者や消費者にアクセスできるだけでなく、我々のポートフォリオに新たな品種が追加される。トルコのパートナーは独自の育種プログラムを持っており、現在、火傷病に耐性のあるナシを育種している。我々はこれを世界中で共有することができる。」ナシに加えて、サクランボとリンゴが提供されている。また、カナダのヴァインランド研究イノベーションセンターからアンズの新しいライセンスを取得した。「これは、トルコのAIGNメンバーが追求したいチャンスの一つである。」

中国では主な焦点はサクランボとリンゴだが、インドではすべてのものが少しずつある。インドには多様な産地があり、現在、様々な地区でどの果樹品種が最も良い成績を発揮するか調査する過程にある。「インドでの果樹生産には大きなチャンスがあり、我々は様々な品種を試している。」

知的財産の尊重

潜在的な新メンバーと出会う機会は常に存在している。先週ベルリンで開催されたフルーツロジスティカ（果実展示会）で、AIGNはアゼルバイジャンの企業と会合を持った。「我々はこの地域での活動経験は無いが、世界中のあらゆる可能性に目を向けたいと考えている。彼らは権利関係のある品種に大変高い関心を持ち、知的財産を非常に尊重していて、これらは我々にとって非常に重要なことであるので、最初の会話は肯定的であった。我々は、育成された品種を保護するために努力し、正しいことを行うパートナーを探している。」

知的財産や商標の保護と品種への敬意の表し方は、AIGNが40年前に設立されて以来変化している。「AIGNは知的財産の保護の専門家であり、メンバーが投資を安全に保つための複雑なプロセスを切り抜けるよう支援している。」つい最近、中国のAIGNメンバーが、商標を無効にするための訴訟を裁判所に起こさなければならなかった。他者が商標を登録し所有してしまったためだ。「幸いなことに、我々は成功し、訴訟に勝ったが、非常に時間がかかる。しかし、ポジティブな面としては、知的財産を尊重する考え方は、中国のような新興国でも変化しつつある。他人の財産権を侵害していることが判明し、生産者が果樹を引き抜かなければならないいくつかの事例があった。」

執筆者：マリーケ・ヘメス